

第4回スクールミーティング意見交換内容

- 日時： 平成25年7月24日（水）午後3時～午後4時30分
- 会場： 江原中学校図書室
- 参加者： 熊本市教育委員会（崎元委員長、森委員、泉委員、田口委員、廣塚教育長）及び事務局教職員21人（江原中9人、本荘小4人、春竹小8人）
- テーマ：
 - ①「徳・知・体」の調和のとれた子どもたちを育成するために必要なこと
 - ②学校における現状と課題
 - ③いじめや体罰の問題について
 - ④部活動について

（◆：質問、○：意見、▼：要望）

No.	テーマ	項目	教職員	教育委員
1	①	ICT機器の活用	<p>○ デジタルテレビが各階に1台配備されているが、台数不足により十分に活用できていない。</p> <p>○ 少人数指導により、さらに台数が不足している。</p>	
2	①	地域との連携	<p>○ 学校には、学校支援ボランティアがいるが、地域との連携は弱いと感じる。教育委員会の施策として、人づくり、まちづくりが一体となった施策を提示してもらった方が校区としては取り組みやすい。</p> <p>○ コミュニティ・スクールの委員のような人を地域から求めるのは、まだ人選等の課題があると思う。</p> <p>○ 公民館に配置されている社会教育主事が、学校と地域とのコーディネーター役を担ってはどうか。</p>	<p>◆ 学校任せではなく、家庭と地域が連携して地域の児童生徒を育てるシステムとして、具体的にどんなシステムがあればいいと思うか。</p> <p>◆ 学校評議員の人選に苦勞している学校がある中、教育委員会ではコミュニティ・スクールについて研究している。コミュニティ・スクールの委員のように責任のある人を地域から求めるのが難しいと言われている状況をどう思うか。</p>
3	①	発達障害のサポート	<p>○ 自閉症・情緒学級の人数が増え、教員の更なるスキルアップが求められている。</p> <p>○ 中央区では地域・社会で支えるネットワーク作りが進んでいない。</p> <p>○ 特別支援学級だけではなく、通常学級にも支援が必要な児童・生徒はいる。</p>	<p>◆ 発達障害の生涯にわたるサポートが重要だが、どのような部分を社会がサポートできると考えるか。</p>
4	①	学級支援員	<p>○ 本校では、学級支援員の人数が全く足りない。</p> <p>▼ 学級支援員は通常学級に配置されているが、特別支援学級の児童数も多く学年も違うので、各学年に1人は必要である。</p>	

(◆：質問、○：意見、▼：要望)

No.	テーマ	項目	教職員	教育委員
5	①	体力低下	<p>○ 個人差、家庭差が大きく、深夜までゲームに興じ、生活のリズムが崩れ、昼夜が逆転した生活の子もいる。体力の向上のためには、家庭の理解が不可欠であり、総合的な取組が必要である。</p> <p>▼ 要望を出してはいるが、体力向上に必要な諸道具を購入する予算が不足している。</p>	<p>◆ 体力の低下の原因はどこにあると考えるか。</p>
6	①	携帯、スマートフォン	<p>○ 親子で依存症のような状況であったり、親が指導せず、食事中や風呂でも携帯を扱っていたりしている子どももいる。</p> <p>○ 昼夜逆転し、不登校になってしまうこともある。</p> <p>○ 個別の対応をしている。必要に応じて、スクールソーシャルワーカー(SSW)やスクールカウンセラー(SC)等、チームで家庭へ対応している。</p>	<p>◆ 携帯、スマートフォン依存症のような状況になっている児童生徒はいるのか。</p> <p>◆ 学校ではどのような対応や指導をしているのか。</p>
7	②	家庭教育力	<p>○ コミュニケーション力が低く、学習習慣が身につけていない生徒が増えている。</p> <p>○ 教員との日常の会話がうまく通じない場面があることから、本の読み聞かせなど不足しているように感じる。</p> <p>○ 夏休みの宿題等の家庭学習の指導が十分でない。</p> <p>○ いつまでも宿題を提出しない子どもには、学校で居残りをさせて、提出させている。</p> <p>○ 夏休みに保護者を対象に教育相談をしている。</p>	<p>◆ 家庭教育の現状はどのようなものか。</p>

No.	テーマ	項目	教職員	教育委員
8	②	保護者児童生徒への対応 及び 教職員のメンタルケア	<p>○ 児童生徒の対応は担任が、保護者対応は管理職がするようになり、指導がしやすくなった。学校には人的支援が必要である。</p> <p>▼ SSWを予約しても数ヶ月待ちである。線引きが必要と言われても、不登校等の子どもを放っておくわけにはいかないの、児童生徒を支援する明確な方法を示してほしい。具体的な線引きは、現場では見えないので、手が打てない場合の行政の対応を要望する。</p> <p>○ 不登校の児童生徒に対してどこまで教師が関わるべきか、ルール作りが必要ではないか。「今までの先生は来てくれたのに、今度の先生は自宅まで不登校の子を迎えに来てくれない」と、保護者に不満を持たれてしまう。</p>	<p>◆ 先生方の精神面での不調を懸念している。学校と家庭の責任の線引きが必要ではないか。親、社会がしなければならないところと、学校がするところをはっきりすべきなのではないか。</p> <p>○ 教職員のメンタルのケアについて、組織的に十分でないという意見がある。現場で対応できているところは良いが、市内の学校を見ると、互いにカバーしている状況があっても、ダウンする人がいる。そのような状況の中、組織としての対応を考える必要があると考えているので、教育委員会でも議論したい。</p>
9	②	不登校や問題行動への対応	<p>▼ 不登校には、SSWを活用している。今年4月に30件程度のSSWの活用申請をしたが、そのうち5件を対応してもらえることになった。先生のメンタルケア、教員の負担軽減にもつながるので、さらに、SSWの増員を希望する。</p> <p>○ 他の先生と情報交換をして、複数名で対応するようにしている。</p> <p>○ いじめ・不登校の専門委員会をつくり、担任だけが抱え込まないようにしている。</p>	/

No.	テーマ	項目	教職員	教育委員
10	②	校舎の老朽化	<p>▼ 校舎が古く、風通しが悪い。教室の棚などもボロボロなので、きれいにして欲しい。</p> <p>▼ 新築の校舎を要望しているわけではない。教室は壁や床が剥がれ、子どもの心を育てる環境とは言い難い。せめて普通の学校の状態にしてほしい。</p>	<p>○ 他都市の幼稚園では、教室の環境を整備したことにより、教育効果が上がったという事例も耳にしたことがある。</p>
11	②	人権教育	<p>○ 江原中、本荘小、春竹小の3校では、連携をとりながら小中9年間を見通した人権教育を行っている。</p>	<p>○ 小・中学校での連携を密に、今後も継続した取組を期待する。</p>
12	③	児童生徒指導時の心がけ	<p>○ 自身の心に余裕がないときは、感情的になってしまうこともある。</p>	<p>○ 子どもの被害意識の強さに、神経を逆なでされることがあるが、怒りをコントロールできるようになってほしい。</p> <p>○ 民間企業と比較して、教師に対するメンタルケアは十分なのか。</p>
13	④	部活動における外部指導者	<p>○ 以前、生徒指導上課題の多い学校に勤務した際、生徒が外部指導者の指導ばかりに従い、教員の指導に従わなくなった。学校教育の一環としての部活動であり、教員が指導することにより生徒との信頼関係を築くことも大切である。</p> <p>○ 部活動の指導は、少なからず負担感を感じることであるが、保護者の心ない発言に大きな負担を感じることもある。</p> <p>○ 一旦外部指導者を入れると、辞めてもらうのに多大な労力が必要となる。また、中には、部活動指導にやる気や責任感、使命感を持ち、懸命に取り組んでいる教員もいる。</p>	<p>◆ 部活動での外部指導者の活用について、どう考えるか。</p>
14	④	部活動のシーズン制	<p>○ 春竹小は、総合運動部でシーズンごとにバドミントンと水泳をしている。小学校では良いと思う。</p>	<p>○ アメリカでは、シーズンごとに異なるスポーツを練習する。</p> <p>○ 特定のスポーツばかりを練習しすぎると、型にはまってしまうこともあるのではないか。</p> <p>◆ 運動部活動のシーズン制については、どう考えるか。</p>

(◆：質問、○：意見、▼：要望)

No.	テーマ	項目	教職員	教育委員
15	④	放課後の使い方	<p>○ 派遣研修により、名古屋市の学校で研修した際、教員は放課後の時間を、部活動の指導ではなく、子どもたちの学力を上げるために使っていた。</p> <p>○ 学びノートの活用も良いと思う。</p>	
16	④	総合運動部	<p>○ サッカーや野球等、他の人気のある運動部活動が同じ学校内に存在し、それらの部活動は大会出場を目標に活動するからだと思う。</p> <p>○ 教員に、情熱がないと部活動の指導は難しい。</p> <p>○ 指導者の年齢が高い。</p>	<p>◆ 総合運動部が広がらない理由(欠点)は、どこにあると考えるか。</p>
17	④	部活動の大会	<p>○ クラブチームを除いた「運動部活動の指針」を守って活動している部活動だけが参加できる大会等があると良いと思う。</p>	
18	④	楽器の購入	<p>○ 地域や施設からの演奏依頼は増えているので楽器を購入したい。20年前までは市が楽器を購入していたが、現在は、部員の個人購入か、部の顧問や後援会長の名義でローンを組んで買うかのどちらかである。</p> <p>○ 行政が保証するのであれば、需要はあると思う。</p>	<p>◆ 音楽系部活動の楽器は、どのように購入しているのか。</p> <p>○ 例えば、大学の留学生の身元保証を大学教員個人で行っていたが、数年前から、機関保証により大学自体が保証する制度が始まった。同様にローンを、組織の責任者の名義で組んで、返済は受益者がするということができればいいと思うが。</p>
19	その他	負担軽減	<p>▼ 負担軽減の実感がなく、年々多忙になっている。調査等の提出書類を減らして欲しい。</p> <p>○ 学校に、より多くの人的支援があれば、教員の負担は軽くなると思う。</p>	<p>○ 教育委員会事務局で取り組んでいる負担軽減策を、学校へ示していきたい。(教育長)</p> <p>○ 先生方の多忙を解消する方策を考えていきたい。(教育長)</p>
20	その他	親教育		<p>○ 将来の親を育てるための教育をしていきたい。(教育長)</p>